

資料 3 .

令和 7 年度の重点実施項目

目 次

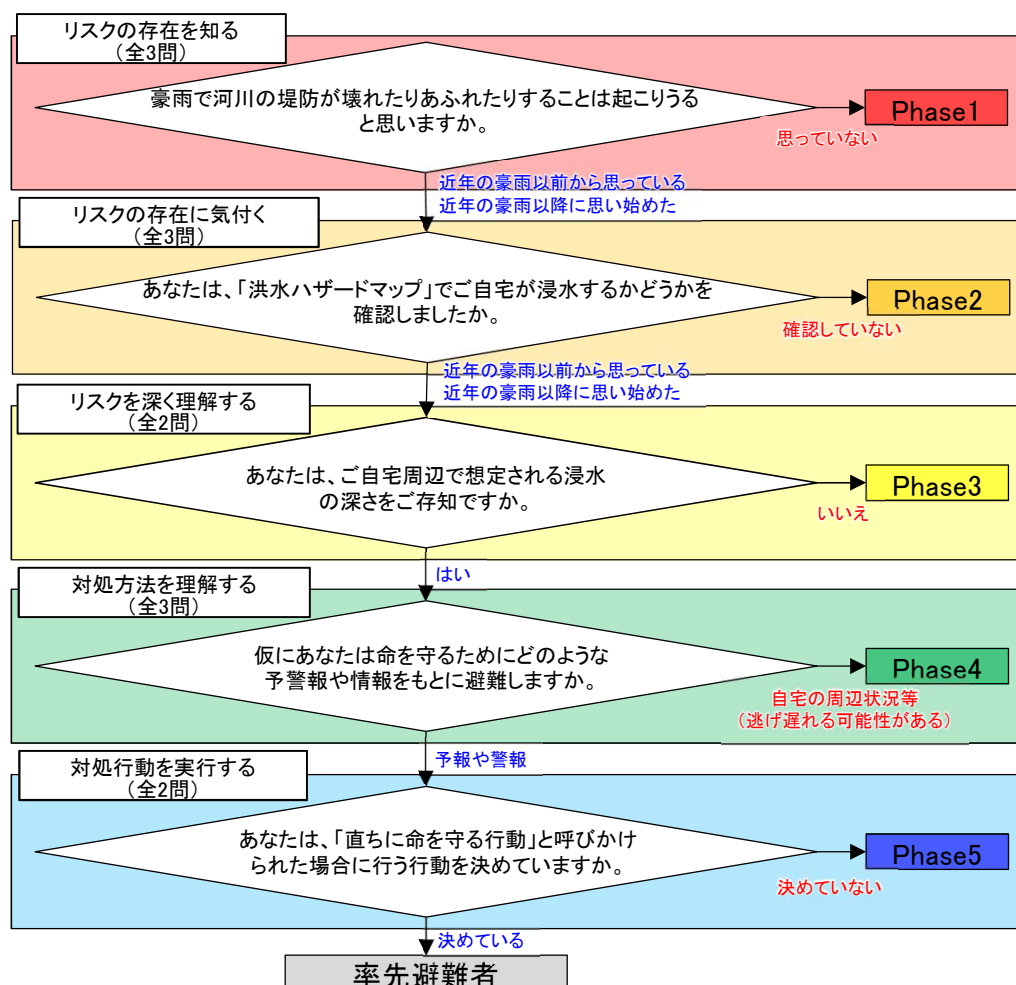
1. 大和川流域における住民の防災意識調査を踏まえた取組について
2. 令和7年度の重点実施項目について
3. 行政機関の防災体制整備について

1. 大和川流域における住民の防災意識調査を踏まえた 取組について

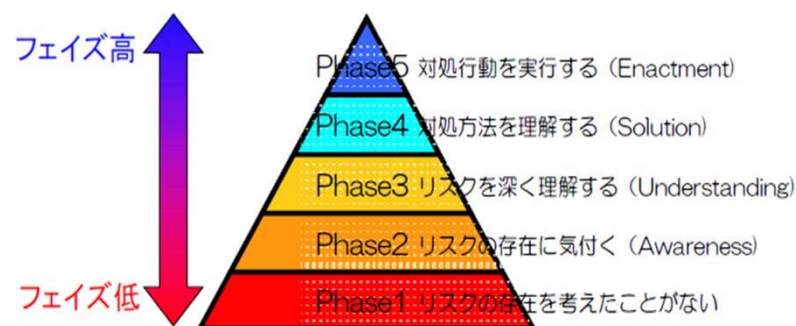
大和川流域において実施している住民の防災意識調査について

- 大和川流域では、“**減災協の取組で住民の防災意識はどう変わるか**”を把握するために、これまで**平成30年度・令和2年度**に氾濫域の住民を対象に**防災意識調査アンケート**（WEBアンケート）を実施してきている。
- 防災意識調査アンケートでは、左図のように**住民の防災意識レベル（フェイズ）がどの段階に到達しているかを判定する評価項目（質問）を設定**し、5つのフェイズ区分の概念を軸に評価して、地域住民の防災意識の現状と特性を把握している。

■評価項目（質問）を設定



■5つのフェイズ区分

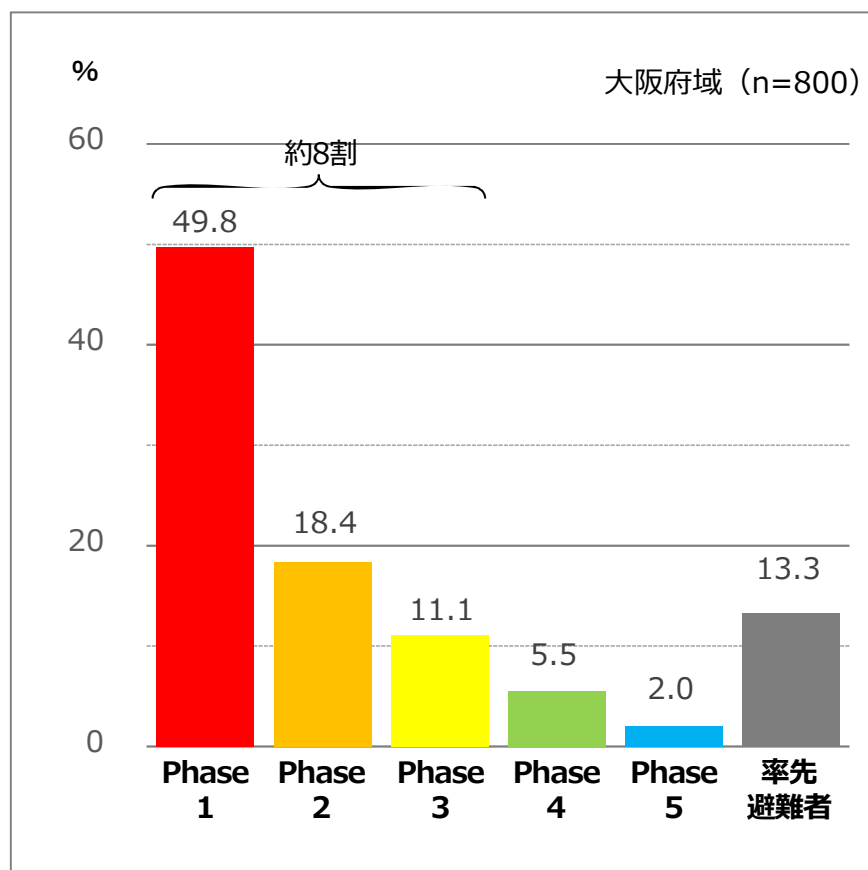


出典: 住民の防災意識水準に応じた教育プログラム策定手法に関する研究

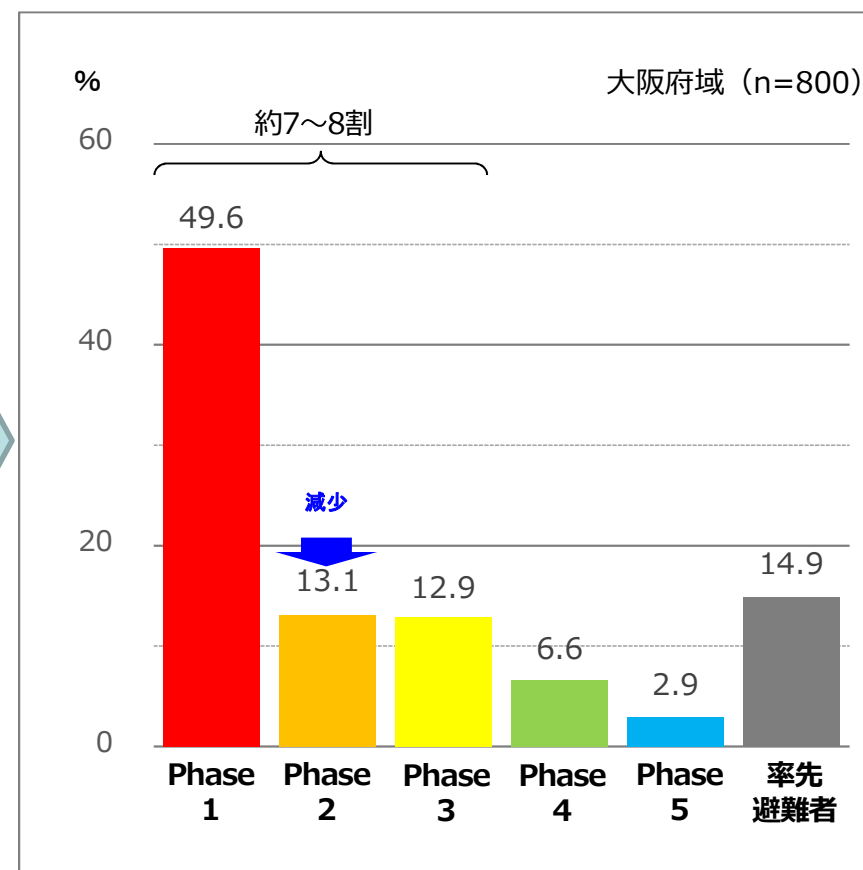
大和川流域における住民の防災意識調査に関する定期的な調査結果

- ・平成30年度の調査では、大和川流域の約7～8割の住民は、Phase1～Phase3の災害リスクの認知度の向上が必要な層であるが、一方で、防災意識の高い率先避難者が約13%存在することがわかっている。
- ・令和2年度の調査では、市町のハザードマップ公表・周知等によりハザードマップの認知状況が高くなっており、Phase2（ハザードマップを確認している層）が減少傾向となっていた。一方で、依然Phase1の割合が高い状況であった。

平成30年度:住民防災意識調査



令和2年度:住民防災意識調査



全体のフェイズ整理

まるまち設置前後に着目した住民の防災意識調査(藤井寺市の事例)

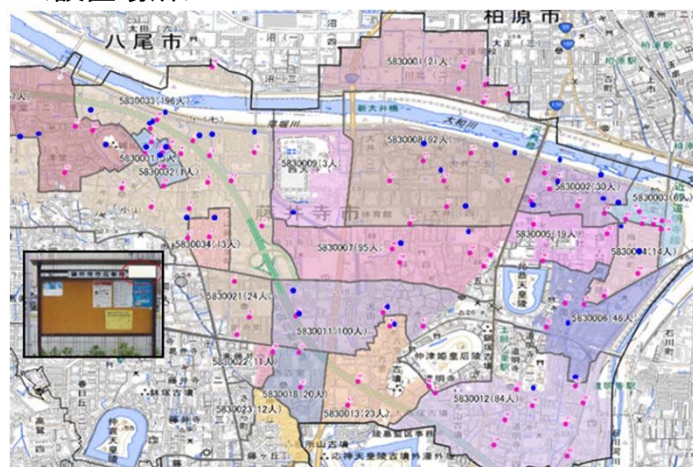
- 藤井寺市では、令和3年度に市内の浸水想定区域内に広く標識を設置しており、標識設置直後(R3)に実施した調査結果と一定期間経過後(R4)に実施した調査結果を比較すると、**まるごとまちごとハザードマップを見たことがある人は、41%から53%に増加**しており、**浸水深を覚えている人の割合も増加**している。
- 標識設置前後の防災意識構造においては、**Phase1の割合が減少**しており、**Phase1に向けたまるごとまちごとハザードマップの一定の効果が示唆**された。

■まるまち看板

<設置イメージ>



<設置場所>

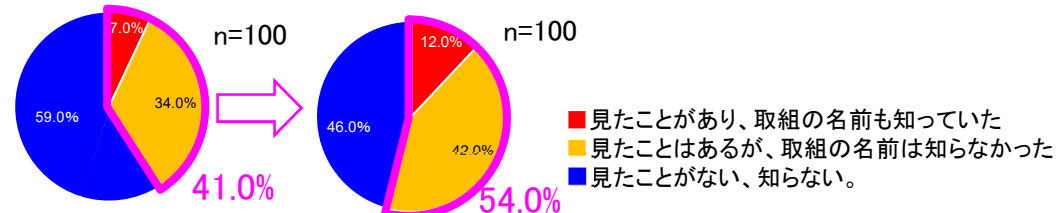


- :浸水想定区域内の藤井寺市広報板(80箇所)
- :公民館やフェンス等(38箇所)

■標識設置前後の藤井寺市におけるアンケート結果

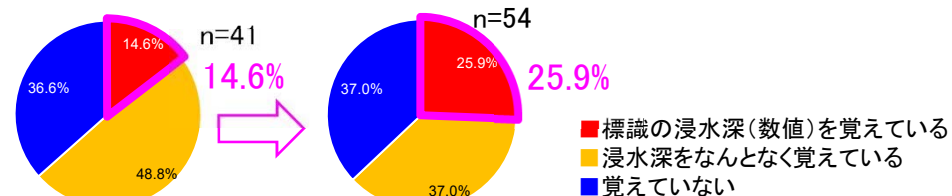
Q「まるごとまちごとハザードマップ」という取り組みをご存知ですか

令和3年度調査(設置前) 令和4年度調査(設置後)

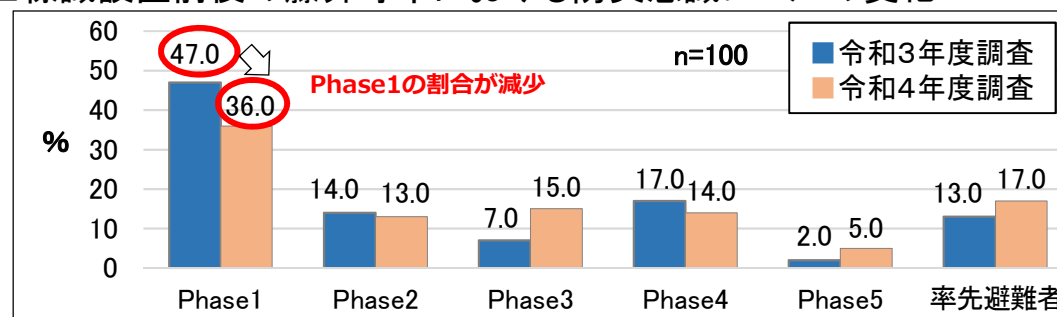


Q標識の浸水する深さを覚えていますか。

令和3年度調査(設置前) 令和4年度調査(設置後)



■標識設置前後の藤井寺市における防災意識レベルの変化



大和川流域における現状の防災意識を踏まえた重要な取組について

- 住民の防災意識の構造としては、**Phase1が減少し、「率先避難者」が増加していくことが望ましい。**
- 今後、取組方針を進捗するにあたっては、住民の防災意識の現状を踏まえて、**「Phase1」「率先避難者」に向けた取組や全体の底上げを図る取組等を実行することが有効**と考える。
- 具体的には、以下の3つのような方針（左図）が考えられ、防災意識を向上に寄与すると考えられる減災対策協議会の主な取組は、右図に示すものが考えられる。

現時点のPhase分類をもとにした有効な取組(例)

①Phase1に向けて

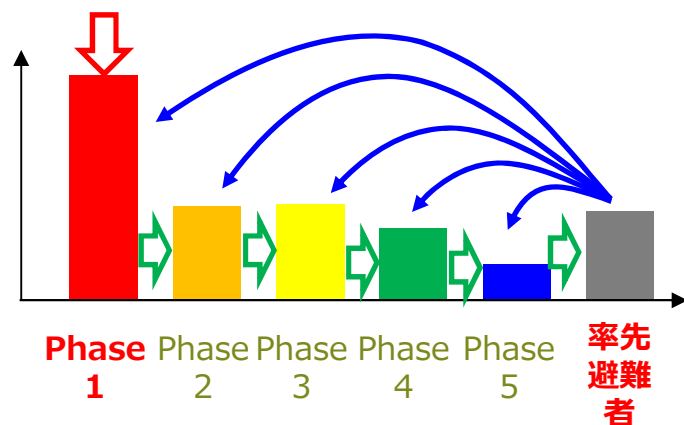
- リスクを認知できていない方に向けて自らのリスクを認知していただくような取組（まるごとまちごとハザードマップ等）

②各Phaseに向けて

- 各Phaseの人がワンランクアップを行えるような取組（防災教育や広報等）

③率先避難者に向けて

- 率先避難者が旗振り役となり、全体のPhaseを引き上げるような取組（マイ・タイムライン作成や避難確保計画の作成等）

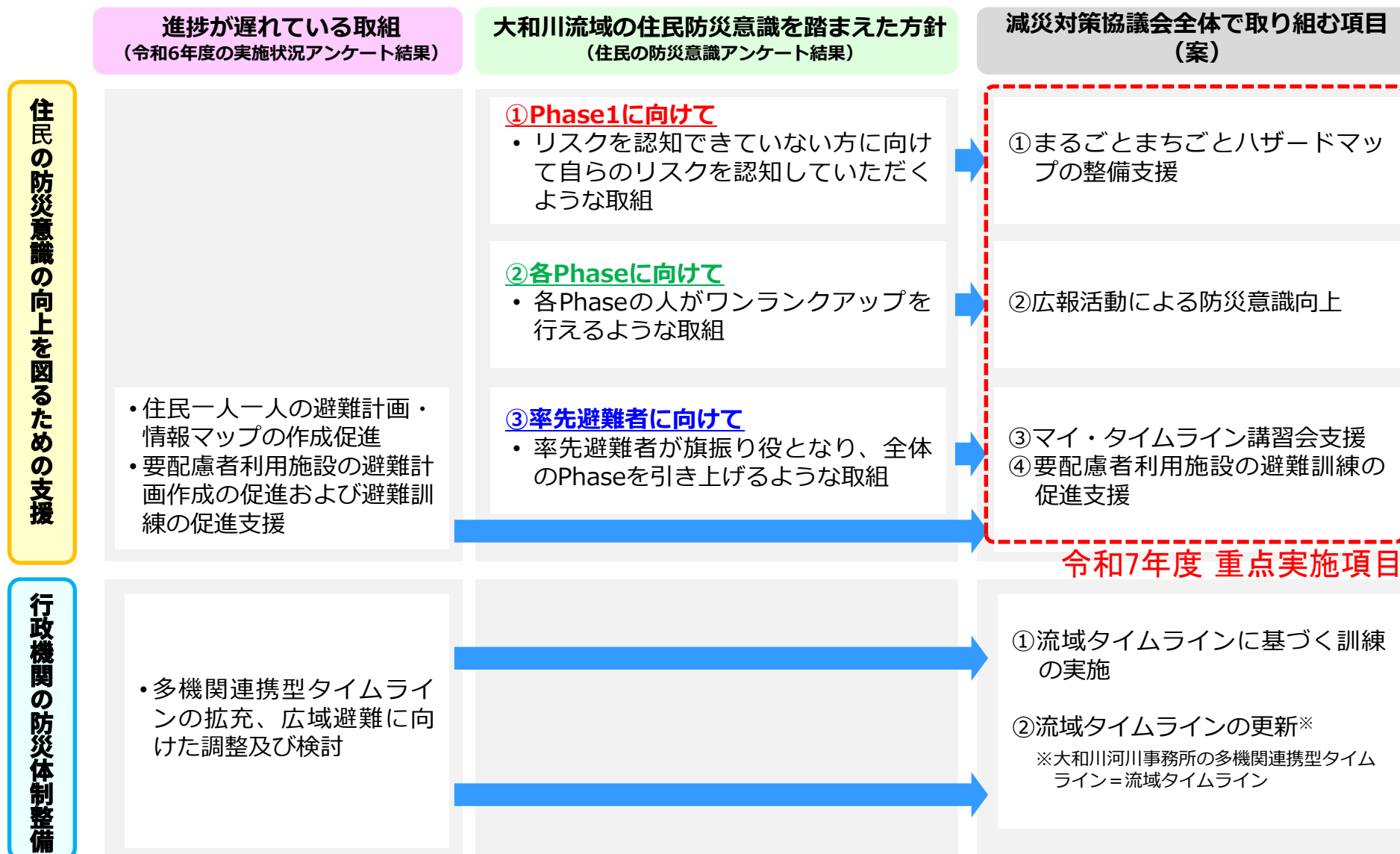


防災意識を向上に寄与すると考えられる減災対策協議会の主な取組

Phase	取組項目例
各Phase共通	1 まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知
	2 洪水ハザードマップへの作成・更新・周知 想定最大外力を対象とした氾濫シミュレーションの公表
	3 避難場所、避難経路の指定・更新・周知
	4 避難行動の判断に必要な河川水位等に関する情報提供
	5・率先避難者 マイ・タイムラインの作成支援 要配慮者利用施設の避難計画作成・避難訓練の支援
	水災害意識啓発の広報 小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施

令和7年度の減災対策協議会全体で取り組む項目(案)

- 過去の進捗状況や住民の防災意識調査結果を踏まえて、令和7年度は以下に示す取組項目を減災対策協議会全体で取り組む項目とする。



2. 令和7年度の重点実施項目

【Phase1に向けた取組】

- ①まるごとまちごとハザードマップの整備支援

【各Phaseに向けた取組】

- ②広報活動による防災意識向上

【率先避難者に向けた取組】

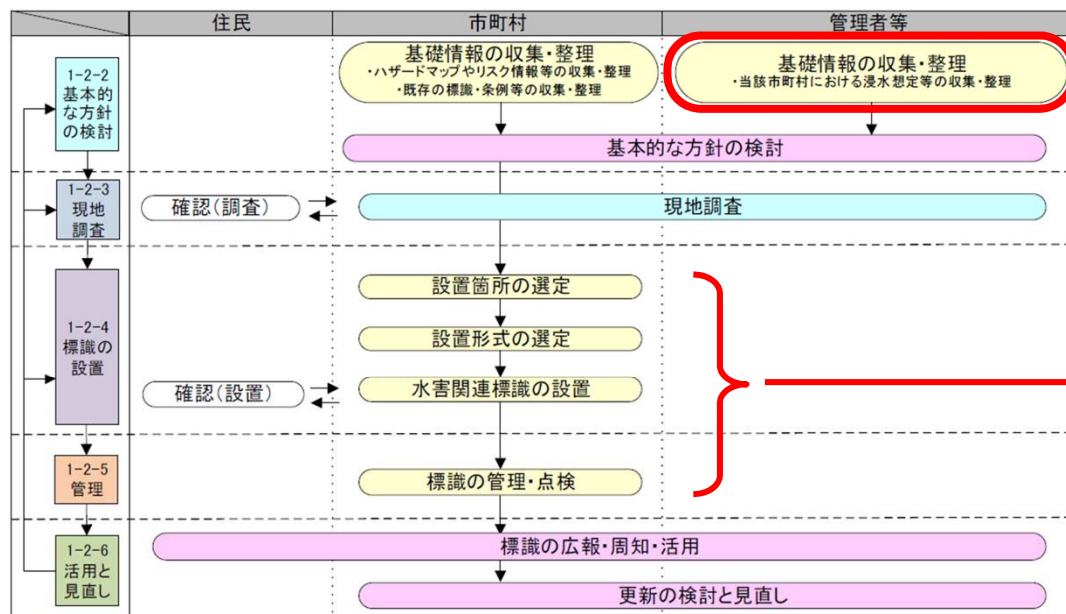
- ③マイ・タイムライン講習会支援
- ④要配慮者利用施設の避難訓練の促進支援

【 Phase1に向けた取組 】

①まるごとまちごとハザードマップの整備支援

①まるごとまちごとハザードマップ標識整備に向けた情報提供等の支援

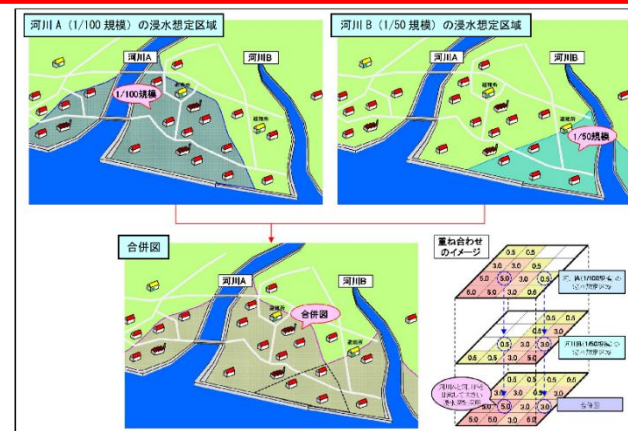
○まるごとまちごとハザードマップ実施の手引き第2版では、河川管理者は「基礎情報の収集・整理」として、浸水想定区域図等のデータ提供や整理により支援することとなっており、大和川河川事務所では、今年度も引き続き情報提供等の支援を実施する。



- 単独実施** : 該当する関係機関がそれぞれ単独で実施する項目
- 分担実施** : 市町村が管理者等と連携しつつ実施する項目
- 共同実施** : 関係機関が共同で実施する項目

実施フロー詳細図（まるごとまちごとハザードマップ実施の手引き第2版 P5）

浸水想定区域図等のデータ提供・整理



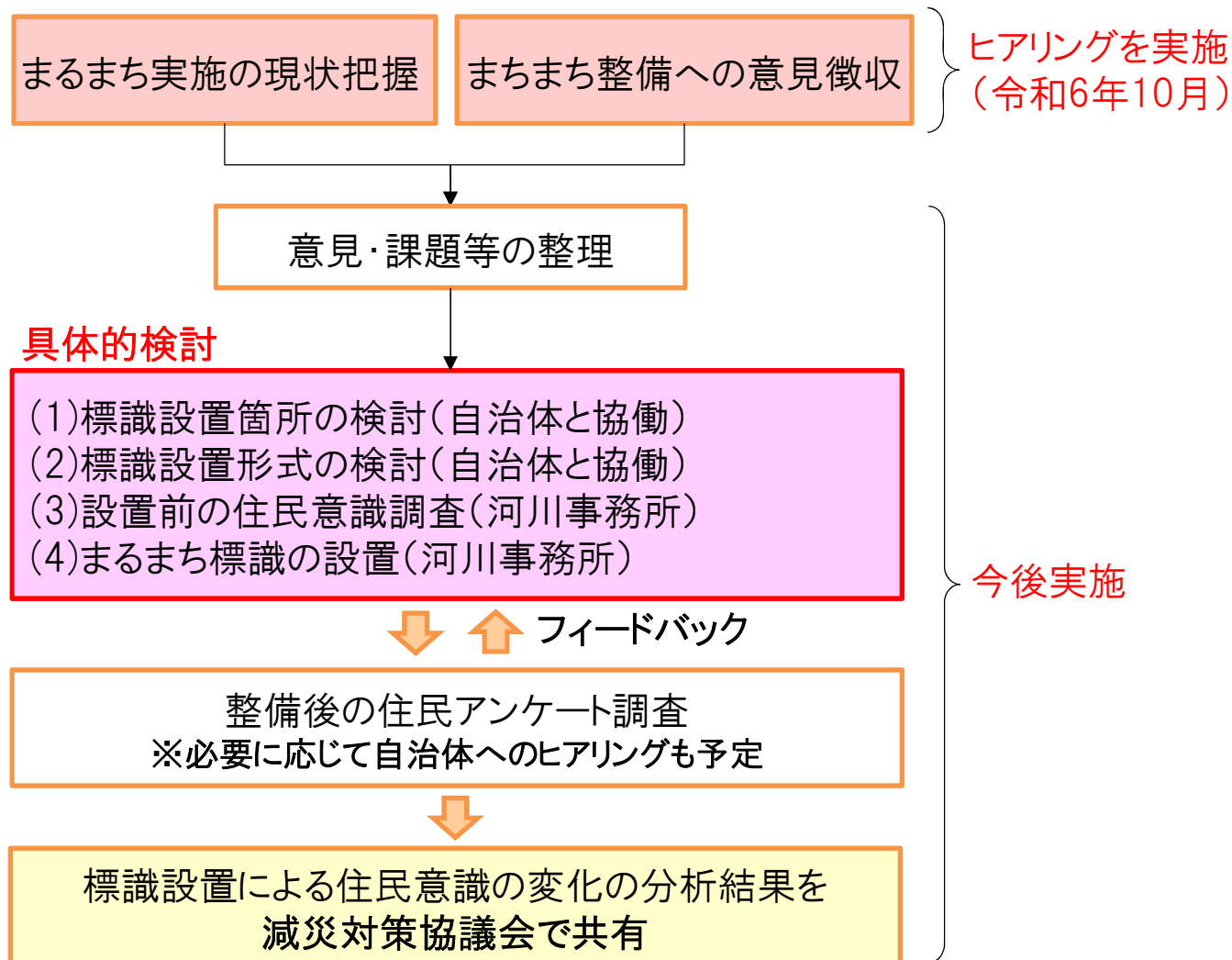
設置箇所や設置形式等の検討を支援



②試行実験に向けた調整と今後の対応

- アンケート調査で試行実験を希望した4自治体を対象に、まるごとまちごとハザードマップ整備拡大の試行実験を行う。
- また、標識設置による住民意識の変化の分析結果を減災対策協議会で共有を行う。

<検討実施フロー>



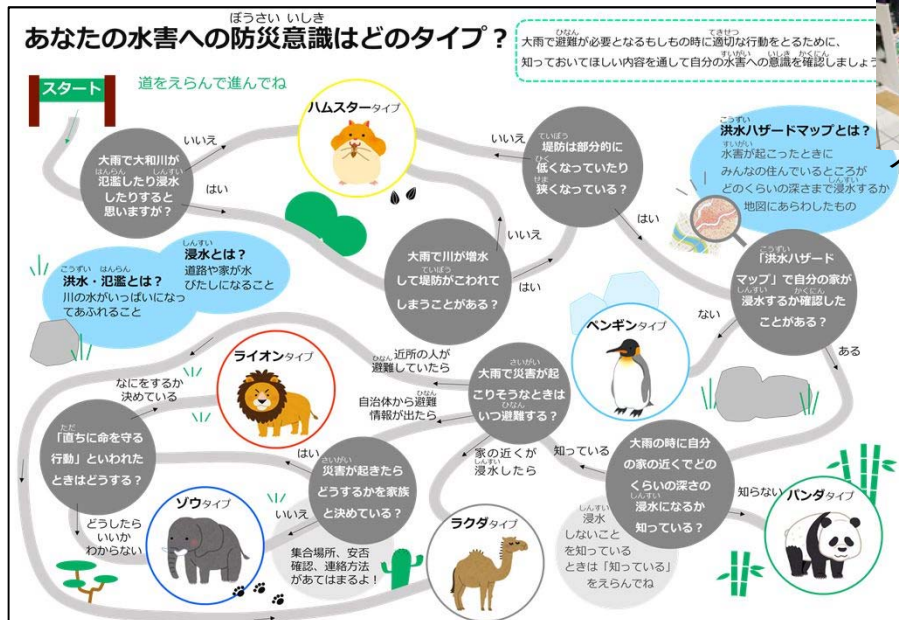
【各Phaseに向けた取組】

②広報活動による防災意識向上

①防災アニマル診断を活用した住民防災意識調査・防災意識向上

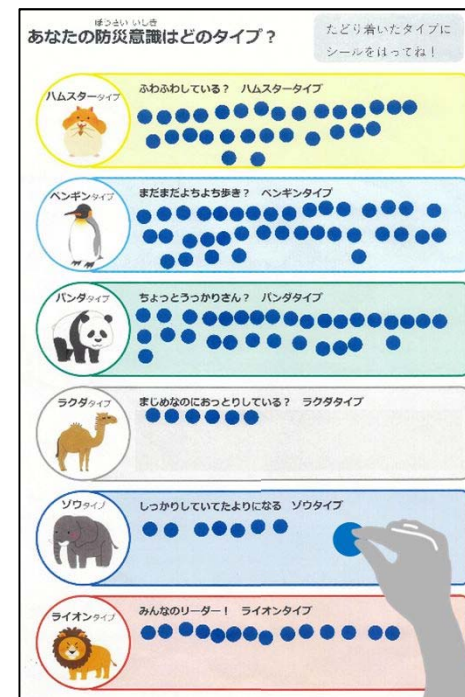
○ 地域イベント等で防災アニマル診断を活用し、回答者の防災意識レベル(動物のタイプ)を踏まえ、認知されていないリスク情報を解説することで、住民の防災意識調査及び防災意識向上を図る。

1 住民の方に、楽しみながら回答してもらえようようなアンケートを配布



イオンモール大和郡山(令和5年2月17日)でのアンケート実施状況

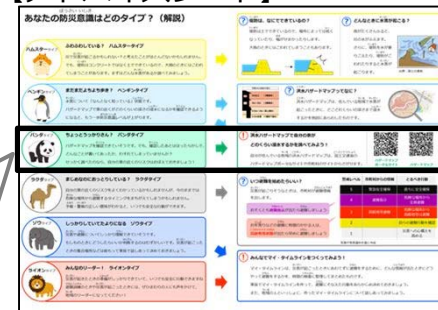
2 住民の方は、「1」のタイプに応じてシールを貼る



3 自分の防災意識レベルを知り、タイプに応じた対応をアドバイスシートで確認することで、住民の方は、気づきを得る



【アドバイスシート】



4 地域住民がどのくらいの防災意識レベルなのかを把握できる

ハムスタータイプが最も多いけど、頼りになりそうなライオンタイプも多い。。



【参考】地域イベント：大和川リバーサイドサイクルライン完成記念イベント

○堺市では、2025年大阪・関西万博の開催を契機に、国内外からの多くの来訪者が安全、快適に自転車で周遊できるよう広域的な自転車通行環境の充実に取り組んでいます。この度大和川リバーサイドサイクルライン完成を記念するイベントが開催されました。

○大和川河川事務所からは、大和川流域治水やかかわまち事業、水質、高規格堤防等のPR、防災意識調査やマイ・タイムラインの普及促進活動を行いました。

【日時】令和7年3月29日(土)11時～16時

【実施概要】・大和川河川事務所の取組紹介 ・防災意識調査

【場所】堺区遠里小野町1丁地内

・流域治水模型での実験

●会場の様子

大和川河川事務所の取組紹介



流域治水模型で実験



防災アニマル診断を用いた防災意識調査



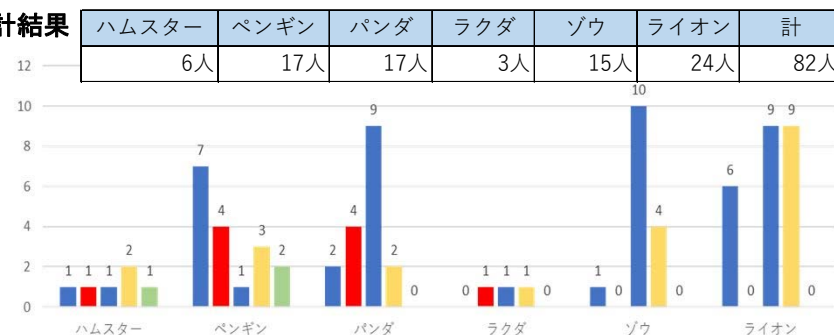
【参加者の声】

- ・子どもと参加し、防災について家族で考えるきっかけになって良かったです。
- ・模型がわかりやすく、楽しく学ぶことができました。

防災意識レベルの集計結果

<凡例>

- 19歳未満：●
- 20歳以上40歳未満：●
- 40歳以上60歳未満：●
- 60歳以上80歳未満：●
- 80歳以上：○



【参考】地域イベント:大和川水辺の楽校まつり

○大和川公園及び河川敷において、大和川が子どもたちの自然環境教育の場となるよう、「大和川水辺の楽校まつり」が開催されました。

○大和川河川事務所からは、大和川の水質、清掃活動、かわまちづくり事業等のパネル展示や流域治水模型による説明、『防災アニマル診断』を用いた防災意識調査やマイ・タイムラインの普及促進活動を行いました。

【日時】令和7年4月27日(日)10時～15時

【場所】大和川公園及び河川敷

堺市堺区香ヶ丘町5丁 旧浅香山浄水場下流

【実施概要】・大和川の水質、清掃活動、かわまち事業等のパネル展示

・防災意識調査 ・流域治水模型での実験

・大和川河川事務所の事業紹介

●会場の様子

大和川の水質、清掃活動、かわまち等のパネル展示



流域治水模型で実験



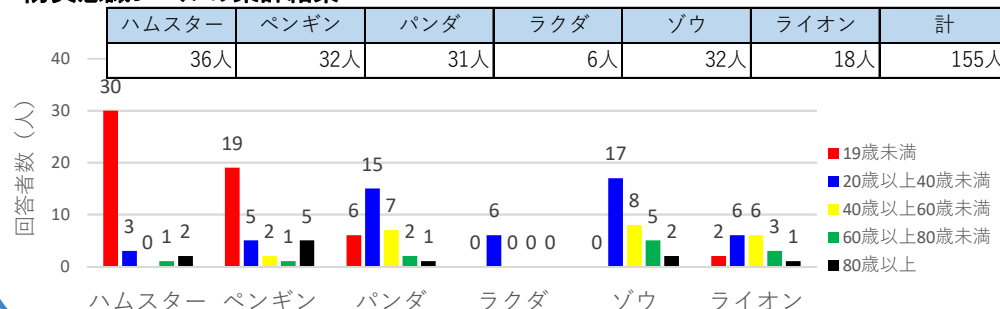
防災アニマル診断を用いた防災意識調査



【参加者の声】

- ・大和川の水質がきれいになってきていると知らなかった。
- ・防災について家族と考えるきっかけになって良かったです。

防災意識レベルの集計結果



<凡例>

19歳未満: ●

20歳以上40歳未満: ●

40歳以上60歳未満: ●

60歳以上80歳未満: ●

80歳以上: ○

2.メディアとの意見交換

○ 令和5年、6年度に引き続き、メディア関係者の方に大和川について理解を深めていただくため、メディア関係者との意見交換を行う。

■意見交換会の状況(事務所会議室・WEB会議併用)



※令和5年度のメディア意見交換会の状況



■災害対策室の見学



【参考】危険箇所合同巡視

○大和川流域では、一昨年6月に台風第2号・前線に伴う大雨により、藤井観測所（王寺町藤井）で計画高水位を超過、板東観測所（大和郡山市額田部）において氾濫危険水位を超過する洪水が発生しました。

○大和川河川事務所では、梅雨や台風等に伴う本格的な大雨時期である出水期の前に、洪水時の迅速な水防活動や避難に資する情報を共有するため、自治体職員などと、合同巡視を行いました。

○合同巡視では、出水時にいち早く越水する水位に達する自治体毎の危険箇所の位置と、危険箇所の状況を把握できる危機管理型水位計や簡易カメラの位置を確認してもらいました。

【日 時】 令和7年4月21日(月)～4月28日(月) 合計5回

【場 所】 大和川、佐保川、曾我川の危険箇所（越水）

【参加機関】 奈良県域 10機関

奈良市、大和郡山市、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、王寺町、広陵町、河合町

大阪府域 8機関

大阪管区气象台、大阪府、大阪市、堺市、八尾市、松原市、柏原市、藤井寺市

合同巡視の様子



曾我川左岸 1.8k



大和川左岸 10.0k

【参加職員の声】

- 出水期前に、こういう機会を作ってもらい、防災担当課の職員としてありがたい。
- 令和5年台風第2号時のカメラ画像を用いた説明により、出水時の川の様子も踏まえて、危険箇所を確認することができた。
- カメラの映像や正しい情報を市民に情報発信していきたい。

NHK奈良放送局の取材がありました

【率先避難者に向けた取組】

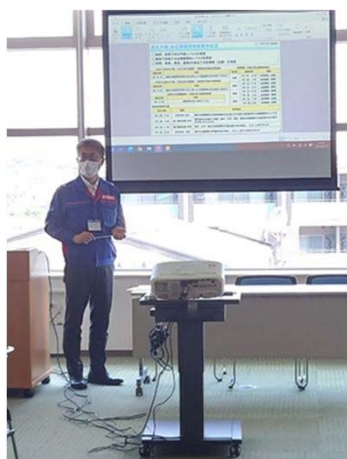
③マイ・タイムライン講習会支援

④要配慮者利用施設の避難訓練の促進支援

マイ・タイムライン講習会の運営支援

○自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助となる『マイ・タイムライン』の作成を目的に、自治会長や地区住民を対象としたマイ・タイムライン作成支援やマイ・タイムライン講習会の運営支援を行う。

■ マイ・タイムライン講習会の流れ



＜講習会の目的説明(国土交通省)＞



＜水害危険性の説明(国交省または気象キャスター)＞



＜避難行動の検討＞



＜行動シールを活用した検討＞



＜参加者同士で行動の違いを共有＞

令和5年度のマイ・タイムライン講習会時の写真(王寺町・東住吉区)

【率先避難者に向けた取組】

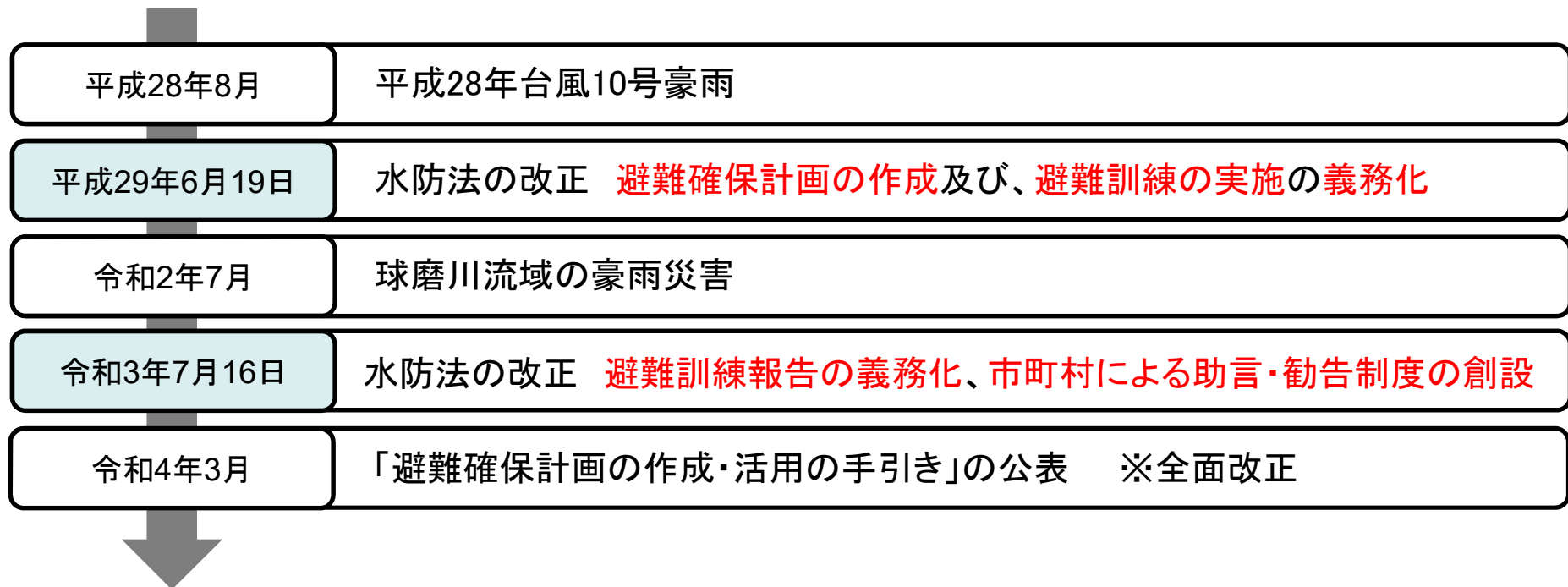
③マイ・タイムライン講習会支援

④要配慮者利用施設の避難訓練の促進支援

要配慮者利用施設の避難訓練の促進支援の社会的動向

- 平成29年6月19日の「水防法」又は「土砂災害防止法」の改正により、市町村地域防災計画に定められた要配慮者利用施設については、『避難確保計画の作成』及び『避難訓練の実施』が義務づけられている。その後、令和3年7月16日の「水防法」の改正により、作成した『避難確保計画に基づく避難訓練の実施報告』についても義務化されている。
- 要配慮者利用施設の特性を考慮し、先進事例を踏まえた講習会資料ならびに訓練支援資料を作成し、避難訓練実施促進のための講習会を企画支援・運営支援する。

■要配慮者利用施設に関する社会的動向



①施設を対象とした実動訓練の支援

○ 要配慮者利用施設の避難訓練実施に向け生じる課題を把握するため、要配慮者利用施設に対して実動訓練に向けた支援を実施する。

①: 事前打ち合わせ

<施設職員>



これまでの避難訓練では、**いつも同じ訓練**を実施している。

<河川事務所>



避難の実行性を高めるためには、**訓練で行動内容を明確化**させることが重要です。
各職員の役割を決めるために、**班を設定**してみてもいいでしょうか。

①全体を指揮する
「統括指揮者」

④避難に必要な設備や装備品等を
点検し準備する「装備品等準備班」

②情報収集や伝達を担当する
「情報連絡班」

③利用者の避難支援を担当する
「避難誘導班」



②: 机上訓練

<施設職員>



いただいた助言を踏まえ、作成したタイムラインの読み合わせを行い、**各職員**が洪水時のイメージを持つことができました。

<河川事務所>



皆さんは、**各班の行動が同時に**行われていることをイメージできますでしょうか。
施設全体の避難行動を整理するために、**施設タイムライン**を作成してみてもいいでしょうか。

施設タイムライン

避難開始前	避難開始時	避難中	避難完了後
・避難開始の指示を受け、避難開始の準備を行う。 ・避難開始の指示を受け、避難開始の準備を行う。	・避難開始の指示を受け、避難開始の準備を行う。 ・避難開始の指示を受け、避難開始の準備を行う。	・避難開始の指示を受け、避難開始の準備を行う。 ・避難開始の指示を受け、避難開始の準備を行う。	・避難開始の指示を受け、避難開始の準備を行う。 ・避難開始の指示を受け、避難開始の準備を行う。

③: 実動訓練

施設タイムラインを用いた実動訓練の実施

②自治体を対象とした講習会運営支援

- 大和川の想定氾濫区域内にある要配慮者利用施設を対象に避難訓練の実施率を上げる事を目的として、避難訓練の必要性、防災気象情報の活用や施設タイムラインの作成に関する講習と意見交換会を行う。

【参考】令和6年度に松原市で実施した講習会支援の概要

【日 時】令和6年12月6日(金)14時～16時

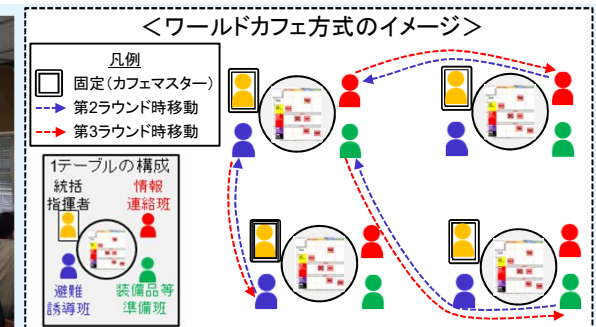
【場 所】松原市役所

【参加者】要配慮者利用施設関係者 29施設37名
行政関係者(気象台、大阪府、自治体) 12名

【議 題】

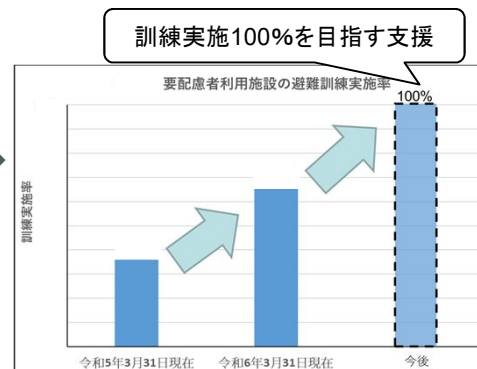
- ①避難訓練の必要性について(松原市)
- ②防災気象情報について(大阪管区気象台)
- ③意見交換会

【テーマ】施設利用者と施設職員の命を守る行動



4人1班で役割を決めて意見交換し、その後、別班に移動し、その班の意見を収集し、元の班に戻り、意見を集約してタイムラインシートを完成させる。

【提出方法】●返信用封筒に同封し、松原市へ提出
●FAXでの提出のいずれか



後日、各施設でタイムラインを検討(机上訓練)してもらい、避難訓練実施を郵送で報告



完成したタイムラインシートを撮影(記録)し、各施設のタイムライン作成に活用

③要配慮者利用施設タイムラインシートの検討

- 大和川河川事務所では、情報収集や情報伝達、防災体制の確立、装備品等の準備、避難誘導の実施などの防災行動を時系列で整理することを容易とするため、『タイムラインシート』及び『行動シール』を検討している。
- ※ 今後、要配慮者利用施設への訓練実施PRに活用できるものとする予定

タイムライン・行動シール（要配慮者利用施設版）															
◆役割分担															
統括指揮者				情報連絡班				避難誘導班				装備品等準備班			
◆避難行動・支援行動															
避難場所計画・手帳などを確認	避難への家族情報の伝達	避難経路の確認	台原連絡や大雨の予警報を確認	明日は念のため休業しよう。	明日の施設は休業します。	避難先及び避難ルートの確認	避難誘導体制の確認	避難先への持ち出し品等を点検し準備	避難品や備品等を点検し準備	避難品等の移動	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始
避難の準備を依頼します。	災害対策本部の状況整備	災害対策本部の状況整備	役割分担の確認	説明・報告	大雨や川の水位の最新情報を確認	避難先の受入状況の確認	利用者の避難を手伝って下さい。	避難先への持ち出し品等を点検し準備	避難品や備品等を点検し準備	移動用車両の手配	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始
避難誘導体制の確認	会議室・倉庫等の準備など	施設上層階のスペース確保	避難開始の準備	行動確認	互恵！集合して下さい	避難準備中！行ってください	大雨や川の水位の最新情報を確認	避難品や備品等を点検し準備	移動用車両の手配	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始
利用者の説明	食事介助	排泄介助	与薬	入浴介助・清拭	与薬	防災メール受信	防災メール受信	大雨や川の水位の最新情報を確認	移動用車両の手配	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始
避難を開始して下さい	これから避難先へ避難します。	これから避難先へ避難します。	避難品等の準備（重い持ち物準備）	避難誘導	施設内移動	エレベーターにて移動	階段による移動	車道による移動	利用者の確認	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始
徒歩による移動	利用者の体調管理	避難完了の報告	避難先への連絡	避難先へ避難したので報告します。	食事介助	排泄介助	与薬	清拭	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始	避難開始
医療的ケア	リハビリ	避難先での応対（排泄物等）	避難品・備品の管理												

タイムライン・シート（要配慮者利用施設版）				
緊急までの避難の目安 1～3日前	警戒レベル1 ■早期注意情報 （被害の可能性がある）	統括指揮者 避難場所計画・手帳などを確認 明日は念のため休業しよう。	情報連絡班 避難への家族情報の伝達 台原連絡や大雨の予警報を確認	避難誘導班 避難先及び避難ルートの確認 避難誘導体制の確認
3～12時間前	警戒レベル2 ■大雨注意情報 ■洪水注意情報 ■高潮注意情報	避難先への持ち出し品等を点検し準備 避難品や備品等を点検し準備 移動用車両の手配	避難品等の移動 移動用車両の手配	避難品等の移動 移動用車両の手配
4～6時間前	警戒レベル3 ■高齢者等避難 ■洪水警戒情報 ■大雨警戒情報（土砂災害） ■高潮警戒情報	避難開始の準備 互恵！集合して下さい 管内放送 避難準備中！行ってください	避難開始の準備 互恵！集合して下さい 管内放送 避難準備中！行ってください	避難開始の準備 互恵！集合して下さい 管内放送 避難準備中！行ってください
3時間前	警戒レベル4 ■避難指示 ■洪水危険情報 ■高潮危険情報 ■土砂災害警戒情報 ■高潮警戒情報	避難開始 利用者の確認 避難開始	避難開始 利用者の確認 避難開始	避難開始 利用者の確認 避難開始
2～3時間前	警戒レベル5 ■緊急安全確保 ■大規模警戒 ■土砂災害警戒	避難開始 利用者の確認 避難開始	避難開始 利用者の確認 避難開始	避難開始 利用者の確認 避難開始
発災		避難開始 利用者の確認 避難開始	避難開始 利用者の確認 避難開始	避難開始 利用者の確認 避難開始

行動シールの記入例

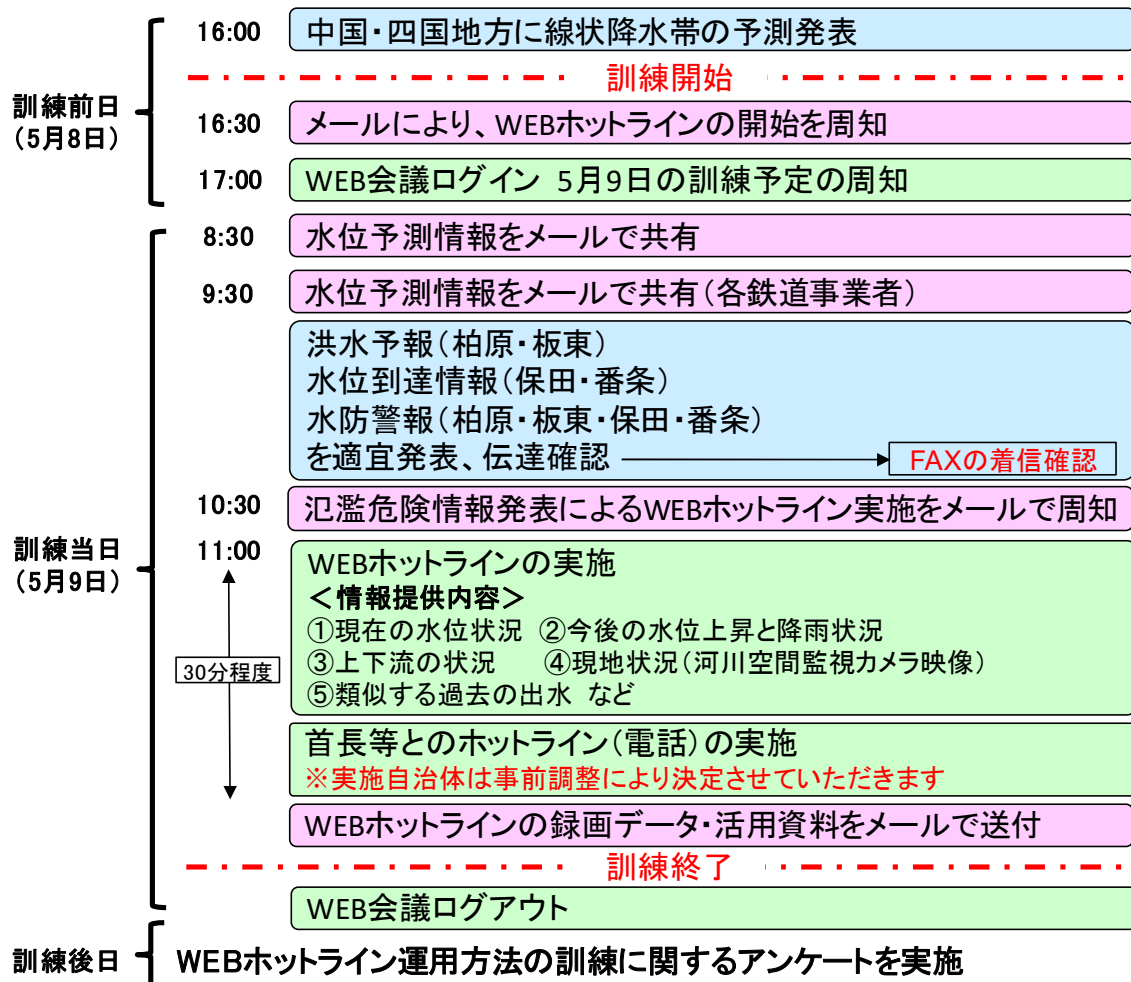
3. 行政機関の防災体制整備

- ①流域タイムラインに基づく訓練
- ②流域タイムラインの更新

①流域タイムラインに基づく訓練(令和7年5月8日・9日実施済み)

- 出水に備え、FAX、電話およびWEBホットラインによる河川水位などに関する情報伝達訓練を実施する。
 - 訓練は、WEBホットラインを活用した情報提供内容の確認を目的とする。
- 令和7年5月8日・9日に実施済み

＜訓練シナリオ＞



＜凡例＞ □:与条件 □:対応行動(河川事務所) □:対応行動(構成メンバー)

■訓練の風景



＜WEB会議接続開始時_5月8日＞



＜氾濫危険情報発表時のWEBホットライン(5月9日)＞
(大和川河川事務所災害対策室)

②流域タイムラインの更新

- 流域タイムラインについて、流域タイムラインに基づく訓練や出水時を通して、確認された課題や改善点に対し、見直しを行う。

